

第 3 7 回 宇 宙 開 発 委 員 会 （ 定 例 会 議 ）

議 事 次 第

1. 日 時 平成 9 年 1 0 月 2 2 日 （ 水 ）
 1 4 : 0 0 ~
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
 (2) 理解増進に関する懇談会の設置について
4. 資 料 委 37 - 1 第 36 回 宇 宙 開 発 委 員 会 （ 定 例 会 議 ） 議 事 要 旨 （ 案 ）
 委 37 - 2 理 解 増 進 に 関 す る 懇 談 会 の 設 置 に つ い て （ 案 ）

委 37-1

第36回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨（案）

1. 日時 平成9年10月15日（水）
 15:30～17:10
2. 場所 委員会会議室
3. 議題 (1) 前回議事要旨の確認について
 (2) ADEOS事故に係る今後の課題について
 (3) 実機型LE-7Aエンジン燃焼試験（種子島）の実施について
 (4) 第5回宇宙機関会議（SAF-5）の開催結果について
4. 資料 委36-1 第35回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 委36-2 ADEOS事故に係る今後の課題について
 委36-3 実機型LE-7Aエンジン燃焼試験（種子島）の実施
 について（報告）
 委36-4 第5回宇宙機関会議（SAF-5）の開催結果について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

山 口 開 生

宇宙開発委員会委員

長 柄 喜一郎

〃

秋 葉 鏖二郎

関係省庁

通商産業省機械情報産業局次長

河 野 博 文（代理）

郵政大臣官房技術総括審議官

甕 昭 男（〃）

事務局

科学技術庁研究開発局長

青 江 茂

科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

千 葉 貢 他

6. 議事

(1) 前回議事要旨の確認について

第35回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）（資料委36-1）が確認された。

(2) ADEOS事故に係る今後の課題について

宇宙開発事業団 内田理事長及び軌道上技術開発システム本部 古川副本部長より、資料委36-2に基づき、地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）「みどり」の事故に係る今後の課題として、ADEOSデータの利用ユーザへの対応、環境観測技術衛星（ADEOS-II）及び通信放送技術衛星（COMETS）の今後の計画、開発体制等の検討結果について説明があった。

これに関し、委員より、ADEOSの代替衛星データの提供のための受信及び提供体制の概要、宇宙開発事業団で進められている開発体制強化の具体的な内容、ADEOSの代替衛星として期待できる海外衛星の打上げ計画等の質問があるとともに、ADEOS-II及びCOMETSに対しては、ADEOS事故の検討結果を中心に見直しがなされているが、全般的な故障モードの見直しについても検討が必要であること、技術試験衛星VI型（ETS-VI）事故以来人員の増強を中心に進められている開発体制の強化には、質の向上のための制度作りも必要であること等の発言があった。また、山口委員長代理より、今回の「みどり」の事故の遠因には技術力及び経験の不足もあると認識し、従って今後は外部専門家による技術評価も重要であるが、NASDA自身が専門家集団として責任を持って自己評価し、開発を進捗させることも重要である、また、今回の「みどり」の事故を教訓として、本日報告があった事項を確実に実施していくよう強く要請するとの発言があった。

(3) 実機型LE-7Aエンジン燃焼試験（種子島）の実施について

宇宙開発事業団宇宙輸送システム本部宇宙輸送システム技術部 伊藤部長より、資料委36-3に基づき、これまでの実機型LE-7Aエンジン燃焼試験の経緯、10月22日以降の実機型LE-7Aエンジン#1燃焼試験計画の概要等について説明があった。

これに関し、委員より、本年5月の試験で発生したエンジン#2主噴射器エレメントの損傷の発生原因を特定した確証の有無、実機型試験後の予定、開発において製作するエンジンの台数及び1台当たりの経費、主噴射器#3までのオリフィスの形状変更が片方だけの理由等について質問があった。

(4) 第5回宇宙機関会議（SAF-5）の開催結果について

科学技術庁研究開発局宇宙政策課調査国際室 海野係長より、資料委36-4に基づき、平成9年10月7日にイタリア・トリノで開催された第5回宇宙機関会議（SAF-5）の結果概要について説明があった。

これに関し、委員より、日本提案のサフ・アワード（宇宙機関会議による表彰制度）に係る資金負担及び事務局運営問題に係る我が国の考え方、スペース・ミレニアム・イベントの概要等について質問があった。また、委員より、サフ・アワードの創設に向けた取組を中止する場合には、できるだけ早く関係機関にその旨を通知した方が良好等の発言があった。

以上

理解増進に関する懇談会の設置について（案）

平成9年10月22日

宇宙開発委員会決定

1. 目的

宇宙開発を推進するに当たり、その意義、可能性及び国が投資する必要性について広く国民の理解を得ることが不可欠である。特に国際宇宙ステーションについては、参加国が協力してステーションを利用した理解増進活動の検討を開始しており、これに関する我が国としての取り組みを検討する必要がある。

このため、今後の我が国の宇宙分野における理解増進に関する、基本的考え方及び国際宇宙ステーションを用いた方策を含む具体的な活動方策について審議を行う「理解増進に関する懇談会」（以下「懇談会」という）を設置する。

2. 調査審議事項

- (1) 国内外の宇宙分野における理解増進活動の現状と我が国における問題点
- (2) 今後の我が国の宇宙分野における理解増進活動の基本的考え方と具体的方策
- (3) 国際宇宙ステーションについての理解増進活動の具体的方策及び国際宇宙ステーションを利用した宇宙分野における理解増進活動の具体的方策

3. 構成員

別紙のとおり。

4. スケジュール

上記2については、平成10年6月までに終わることを目途に調査審議を行う。

5. その他

その他懇談会の運営に必要な事項は、懇談会で定める。

理解増進に関する懇談会 構成員

座長	森本雅樹	鹿児島大学理学部教授
構成員	えびすさき 戎崎俊一	理化学研究所計算科学研究室主任研究員
	木下伸也	日本電気(株)宇宙開発営業部担当部長
	小岩井忠道	共同通信社ラジオ・テレビ局次長
	斎藤勝利	宇宙開発事業団宇宙環境利用システム本部副本部長
	きこんじゅうまるし 左近充円	鹿児島県菱刈町役場職員、天文愛好家
	立花隆	科学ジャーナリスト
	※中村季恵	(株)NHKエンタープライズ21取締役
	中村浩美	科学ジャーナリスト
	野村昌哉	(株)電通コーポレート・コミュニケーション局長
	※野本陽代	サイエンスライター
	ふりはた 降旗宏忠	大町エネルギー博物館学芸員
	松本零士	漫画家、(財)日本宇宙少年団理事長
	的川泰宣	宇宙科学研究所教授
	宮崎總一	葛飾区中学校科学教育センター主任
	寮美千子	童話作家

※宇宙開発委員会 計画調整部会構成員を示す